

## 1. 活動先

### 特定非営利活動法人

### 美浜町在宅介護家事援助の会 ふれあいネットワーク美浜

## 2. 活動先の概要

ふれあいネットワーク美浜の考え方

「地域の誰もが普通に暮らし、すべての人がその存在を認めあい、困った時はお互いさまと助け合える仲間づくりの場、老若男女年齢を問わず語り合える場、子供も障害者も一緒に楽しめる生きがいつくりの場でありたい」

ふれあいネットワーク美浜のあゆみ：1990年12月ふれあいネットワーク美浜設立  
地域にあたたかい福祉の手を届ける会として発足、通院介助・家事援助・介護講習を行う。  
2001年4月ふれあいハウス美浜（老宅所）開所  
2001年9月特定非営利活動法人設立・認証取得  
2006年3月福祉有償運送法取得

活動日：月曜日・木曜日・希望の方のみ日曜日

活動内容： 9：00～ お迎え

10：00～ コーヒータイム

10：30～ 病院の送迎、利用者の買い物、昼食用意

12：00～ 昼食、昼寝

13：30～ ハーモニカに合わせて歌を歌う

14：00～ 午後のお茶（紅茶・抹茶・緑茶等）飲みながら  
お菓子を食べる

15：00～ お送り

調理コーナーもあり、料理を作ることができる。自由時間は折り紙をされる人やテレビを見る人、新聞を読む人もいる。基本的に利用者のやりたいことをしてゆっくりすごしている。

生活で困ったことがあったら相談にも応じてもらえる

## 3. SL活動のプログラム

私たちがふれあいネットワーク美浜で行った6日間の活動について報告する。

活動を企画するにあたって注意したことは、ふれあいネットワーク美浜の普段の流

れを維持できるよということだった。その理由は、活動が終わった後に利用者の方がさみしい思いをしないようにするなど日常とギャップを感じさせないようにするためである。

朝は学生1人が全盲の方の病院の送迎についていき、残りの学生は利用者の方と雑談などしながら、午前中を過ごした。昼食前は、学生2人が昼食の準備を手伝い、学生1人がお昼にまた全盲の方の送迎に付き添わせていただいた。昼食は、スタッフの方と学生が作ったご飯を全員そろって食べた。午後は自分達が考えた企画を行った。

1日目は自己紹介をした。まず、学生とスタッフの方と利用者の方が各自プロフィールを画用紙に書いて、その後プロフィールを見せながらみんなで自己紹介した。2日目はたこ焼き作りをした。たこ焼きは、普通のタコ焼きとキムチとチーズを入れたものの2種類を作った。3日目は普段の活動のまま、歌を歌った。歌は、童謡や昔の歌などいろいろ歌った。4日目は歌とちぎり絵をした。ちぎり絵は、ごんぎつねの絵をちぎり絵にした。下書きを私たちが書き、それに従って和紙を張ってもらうという形をとった。歌を歌う時に、楽器ができる学生フルート、ピアノなどの楽器を演奏した。5日目はわらびもち作りとちぎり絵の続きをした。ちぎり絵は利用者の方と一緒にすることができず、自分たちがちぎり絵を完成させ、それを見て楽しんでもらった。6日目はちぎり絵が早く終わったので、クッキーとシャーベットを作った。クッキーはココア味、シャーベットはヨーグルトと桃のシャーベットを作った。そして、この日は活動の最終日だったので、私たちの企画の他にスタッフの方が打ち上げを企画してくれた。スタッフの方の手作りケーキを食べたり、ビンゴをした。利用者の方だけでなく、私たちも楽しむことができた。

6日間の活動を通して、一番おやつ作りが利用者の方に喜んでいただけたと感じた。利用者の方は皆おいしいと言って食べてくださった。しかし、ちぎり絵は細かい作業だったので利用者の方に楽しんでもらうことができなかった。

#### 4. 活動のふりかえり

##### (1) 感じたこと・気づいたこと

私たちが活動を通じて感じたこと、気がついたことは、ふれあいネットワーク美浜は利用者の方が10人未満と少人数のNPOであるため、大きな施設とは違うNPO独自の雰囲気やふれあいネットワーク美浜にはあって、居心地が良いということである。それは、利用者に対する会話が「～してください」といった押し付けの感じではなく、日常生活の一部のような何をしようか、といった自然な会話だからだと考えた。スタッフの気遣いがとてもしっかりしていて、利用者スタッフは家族のような関係を作っていて、人と人とのつながりが強いことが活動を通して、私たちが会話や企画などを行う中で感じる事ができた。

また、お昼ご飯などの料理は栄養面にも気を遣っていて、利用者はもちろん私た

ちを含め、どの世代にもおいしいと感じる料理だった。そして、料理からも季節を感じる事ができたことから、日常を感じられると気がついた。

ふれあいネットワーク美浜で気持ちが優しくなれる理由は、居心地がよく本当に自分をだせる場だからだと感じた。それによって、NPO というこのような空間は、利用者にとってもスタッフのいきいきとした様子からも大切であると感じさせられた。

## (2)学んだこと

私たちが学んだことは、ふれあいネットワーク美浜は地域の人と関わりの場所であると学んだ。従って、地域の人と関わる事ができる場所は必要であると思った。しかし、その一方で男性の利用者はいないと言っていいほどほとんどいなく、そのことから男性の地域参加の難しさを感じた。

また、利用者は細かい作業が苦手な方がいたり新しいことが苦手だったり、ちぎり絵などの企画を行うにあたり気を配ることがたくさんあると学んだ。そして、利用をするには利用料もかかるので家族の理解も大切であることを接することで学んだ。会話の面では、スタッフに若い子たちはしゃべり方が早口で分からないと言われ、私たち学生はゆっくり大きい声で話すという話し方や、積極的に自分から行動をしなければいけないことを学んだ。学生は、利用者やスタッフの名前を早く覚えて、名前で呼ぶことが親しくなれるための一歩だととても感じた。そして、利用者一人一人のペースを知っておくことも関わることで大切であると学ぶことができた。

全盲の方の送迎について行かせていただいたことで、歩くペースをあわせることやものの形についてなどわかりやすく説明する大切さを学んだ。また、送迎を行う必要さを考えさせられた。

## (3)深めていきたいこと

私たち、ふれあいネットワーク美浜で6日間での活動を通して、学んだことや感じたことを生かして今後の学習で深めていかなければならないことは、利用者さんの誰もが喜んでくれる企画を考えるということである。活動を通して、ちぎり絵などの細かい作業はやりたくない方がいた。しかし、たこ焼きやお菓子を作った時は大変喜んでくれたのである。このように、利用者さんが喜んでくれる企画を考えるべきであると思った。その為に私たち自身が身につけていかなければならないスキルは事前訪問などでの初対面の人とのコミュニケーションの中で相手が何をすれば、楽しいのかということや望んでいることを把握する必要があると考える。その過程において、会話の転換の仕方を工夫することが大切なことであると考えた。また、利用者さんとどこまで関わりを持って良いのかをコミュニケーションを通して考えていきたい。

活動先の方に男性の地域参加が進んでいないということ聴いたのでNPO活動や地域活動に男性も入る為には何をすればいいのかということもグループで考えていき深めていきたいと考えている。

以上のことから、私たちは、グループでコミュニケーションの大切さや男性の地域参加について深めていきたい。

## **5. おわりに**

最後に、私たち学生を温かく活動に迎えて下さり、家族のように接して下さいました「ふれあいネットワーク美浜」の理事長さん、スタッフさん、利用者の皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。これからも、よろしく願いいたします。